

17) 靈的エクササイズ 11. 2020年4月25日

朗読 第一ペトロ5：5b-14

福音 マルコ16：15-20

父と子と聖霊の御名によって アーメン。 イエスとマリアは讃えられますように！
兄弟姉妹の皆さん、今日は福音記者の聖マルコを記念して祝います。彼は、短いけれど、
とても深い内容の福音を残してくれました。彼の本当の名前は、ヨハネ・マルコです。
使徒言行録を読むと、使徒たちがよく彼の家に集っていたことがわかります。

例えば、ペトロが天使の助けで牢獄から出て向かったのがマルコの家でした。（使徒12：1-17）

後に、マルコはペトロの忠実な伴（とも）として福音宣教の旅をします。その前に、マルコ
のいとこのバルナバ…慰めの子と言う意味ですが…は、マルコをパウロとの宣教の旅に
連れて行きました。（使徒12：25，13：5）

しかし、何かが起こり、マルコは彼らと別れて、一人家に戻ってしまいます。（使徒13：13）

のちに、パウロとマルコは和解したことがわかります。（コロサイ4：10）

マルコはほとんどペトロと行動を共にしました。

ペトロは今日の朗読箇所、「共に選ばれてバビロンにいる人々と、わたしの子マルコが
よろしくと言っています」と書いています。「わたしの子、マルコ」。つまり、この二人
は親子に等しい関係になるほど、親しく共に時間を過ごしたということでしょう。

ペトロは「岩」でした。しかし、いつも「ペトロ」だったわけではなく、「シモン」でも
ありました。「シモン」の持つ意味は、「ゆらぐ」です。

ペトロやマルコのように、私たちの多くはダイヤモンドです。まだ、削られ、磨かれてい
ないダイヤモンドです。ペトロの生き様を読むと多くのことが学べます。福音史家たち
が、使徒たちの弱さについても、とても正直に記していることに驚かされます。そこ
には、使徒たちの成長の様子が読み取れます。

イエスの使徒となるには、時間を要するのです。日々磨かれ、天国に行ったときに、よう
やく私たちは四方に輝きを放つ美しいダイヤモンドとなることができるでしょう。

イエスが私たちを育てたいと思われるとき、私たちはイエスとコンタクトを取っておく必
要があります。イエスと親しい関係を持つこと、イエスが私たちの中で働くことに同意す
る必要があります。

もしかすると、それは非常に苦痛な状態、恥を感じるような状態であるかも知れませ
んが、そのとき、神は私たちと取り組んでくださっているのです。

これは、苦しくはありますが、自分の中で何かが起こっている素晴らしい瞬間でもあるの
です。

そのとき、「気力を失う」という一番危険な誘惑に打ち勝たなければなりません。

「こんなこと、意味がない」「いくらやってもどうせ変わらない、もう、いいや」と諦めてはなりません。

ペトロの場合も使徒となるまで時間がかかりました。そのペトロがマルコと道中を共にしたのです。ペトロはマルコの弱い部分をよく理解でき、手本を示すことができたでしょう。

今日の朗読箇所、ペトロはこう書いています。

「皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、”神は高慢なものを敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる”からです。だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。」

ペトロは上に立つものでした。そういう性質を持っていました。福音書でもよく第一の場所を占めて登場します。

イエスは変容のときにペトロを山の上に連れてゆかれましたし、受難が始まるときもゲッセマニに彼を同行されました。ペトロは、「イエスがメシアである、生ける神の子である」と知ることができました。しかし、イエスをいさめたときには、「サタンよ、退け」（マタイ16：23）とも言われました。

彼は完璧な使徒ではありませんでしたが、心から使徒になりたいと欲していたのです。あなたもそうですね？ 心から使徒になりたいと望んでいますね？

ペトロには弱さがありました。あなたにもあります。でも、落胆しないでください。この弱さが、あなたをイエスのおそばに近づけ、イエスに出会わせてくれるのです。

ペトロの言うように、「神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます」なのです。

次に、真珠のような素晴らしい言葉が続きます。

「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなた方のことを心にかけていてくださるからです。」

「何もかも」です。あなたはどんな制限もつけず、すべての思い煩いを神に委ねるのです。イエスはどんな思い煩いよりも、どんな問題よりも、病気よりも、罪よりも、どんな過失よりも強いのです。

ペトロがイエスを否認したことを思い出してください。イエスは否定、否認よりも強いのです。

これはペトロにとって非常に辛い瞬間でした。しかし、自分ではどうしようもできなかったのです。

私たちもよく、自分のしてしまった過失の言い訳をしませんか？ どんなもっともな理由をつけても、心は軽くはなりません。

そんなことはせず、イエスにすべてを明け渡してください。自分の中に位置するあなたの愛する人々、親しい人々の場所を少し退かせ、イエスにすべてを委ねましょう。そうすればイエスが面倒をみてくださいます。ペトロにされたように、あなたにも計らってください。

ヨハネ・マルコの場合も同様です。彼ははじめはよく揺らいでいましたが、ペトロのそばで多くを学び、時間をかけて固く立てるようになりました。きっと、この二人はとてもよく似ていたのでしょう。弱さだけでなく、主イエスへの愛と信頼の強さも似ていたことでしょう。

みなさん、他人や自分自身に、「氣力を失うこと」を許さないようにしてください。私たちが氣力を失わないように、主が私たちを強めてくださいますように。主よ、あなたの尊い御血で私たちを祝福し、守り、平安をお与えください。父と子と聖霊の御名によって。アーメン